

大手川河川激甚災害対策特別緊急事業の概要

大手川は、宮津市の中心市街地を流下する河川であり、周辺には都市機能が集中しています。しかし、平成16年10月20日の台風23号により2,400戸を超える家屋の浸水被害が発生しました。そこで、「河川激甚災害

対策特別緊急事業」により、安心・安全な河川への抜本的な改修を行うことになりました。具体的には、台風23号と同等の洪水が発生しても氾濫しない川づくりを進めます。

激甚災害対策特別緊急事業（通称、激特事業）とは
 激甚な被害が発生したとき、再びそのような被害が起きないように、国からの補助のもとに緊急にその対策を行う事業です。

激特事業の指定及び採択基準
 指定基準 浸水家屋が2,000戸以上
 採択基準 全体事業費が10億円以上で被害額に相当する額を限度

大手川の河川整備の目標

宮津の歴史と自然を生かした安全で、心やすらぐ水辺づくり

- ① 大手川流域の自然を生かす水辺づくり
- ② 宮津の歴史的な遺産を生かし、高める水辺づくり
- ③ つどい、心やすらぐ水辺づくり

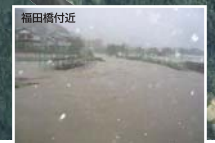
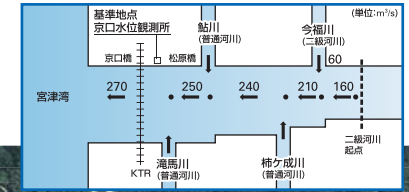
主な事業内容

河道の
拡幅・掘削

河川の
護岸工事

橋梁架
替え等

流量配分図

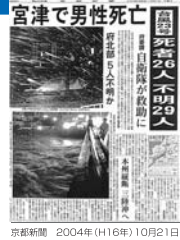


浸水戸数	2,485戸	床上	1,585戸
浸水面積	約170ha	床下	900戸

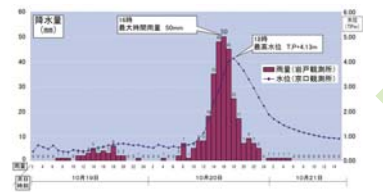
	はん濫区域
	河川激特事業区域
→	支 川
—	橋 梁

台風23号出水被害状況

台風23号は、大手川上流部の岩戸地区において日雨量298mmを記録する大雨を降らせました。この大雨により大手川が氾濫し、宮津市は中心市街地のほぼ全域が浸水する甚大な被害を受けました。



宮津では観測開始以来、最大の時間雨量50mmを記録



左の図は、当日の雨量と水位の経過を表したものです。大手川上流部の岩戸では、午後2時から5時の3時間で143mmの雨が降っています。水位は北近畿タンゴ鉄道橋梁の上流にある京口水位観測所のもので、午後6時に最高水位T.P.+4.13mを記録しています。これは、右側のイメージ写真に示すとおり、周辺の地盤の高さから1.26mまで浸水したことになります。また、この辺りでは、ほとんどの家が1m程度浸水しました。

